

# 病院事業会計の置かれている財政状況

## 1 病院事業会計が置かれている財政状況

公営企業である病院事業運営

利用料金（診療報酬）

交付税措置分（へき地医療等 繰入基準）

一般会計からの基準外繰入

**医師** 患者の立場に立ってできる限り良い医療を行いたい。  
より良い医療施設、医療機器で診療を行いたい。

**管理者** 公益性と企業性の相克の中で、経営全体の妥当性を追求。

徹底的な話し合い

→ 地域医療サービスの追求

### 南魚沼市

- 平成16年から令和元年まで、一般会計からの繰入金は約106億円
- 平成30年度の市の実質公債費比率は県下最低、全国1741市区町村のうち、下から40位前後
- 市の財政調整基金は約19億円、病院事業会計には令和元年度約9億円が一般会計から繰入、うち交付税措置されないのは約4億円

慢性的な赤字構造

- 10年間の収支計画を立て「公営」の観点からはギリギリの繰入を要求
- 「企業」の観点から、民間と同じように経常収支ではなく、医業（事業）収支から経営を判断

## ゆきぐに大和病院の在り方【提言】

### 2 ゆきぐに大和病院の在り方

#### 【現状】

増床新築

市民病院へ  
移設・統合

→ 非現実的

同じような機能をお互いが担っている状況

魚沼基幹病院



病院群

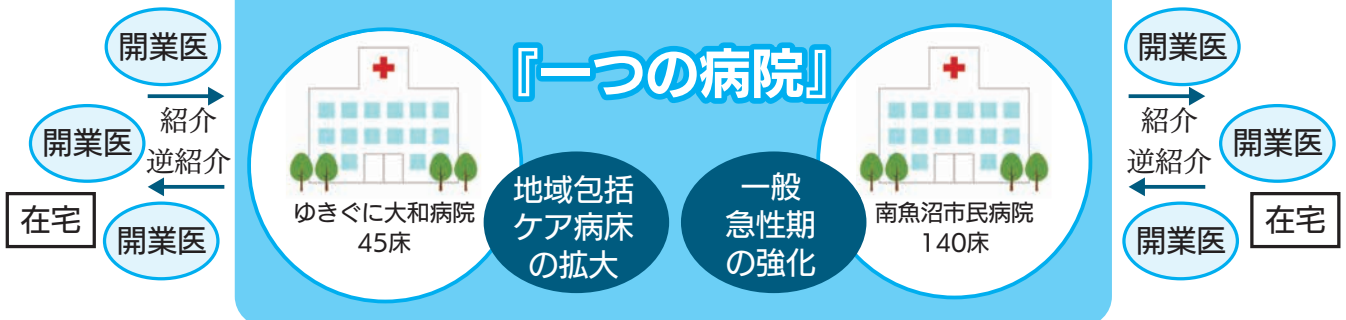


#### 【今後】

今ある医療資源をフル活用 南魚沼地域包括ケア

→ 現実的

当面「一つの病院」として機能分担



病院機能も職員の心も一体となって『新 オールミナミウオヌマ』